

○ 本校の概要

- ◇児童数676名、20学級で、特別支援教室拠点校である。学区内には7町会あり、学校に対して非常に協力的で地域力が高い。
- ◇PTA活動、お父さんの会、同窓会活動が非常に盛んで児童の健全育成にすずんで関わっている。
- ◇学習場面では、一人一人が自らの考えをもって言語活動を通して交流する過程(はなちゃんタイム)を重視し、主体的に学びに向かう力の育成を図っている。
- ◇縦割り班を活用した児童集会・なかよし給食・なかよし遊び等の異学年交流を通して、集団や社会における人間関係形成力の向上を図っている。
- ◇体力向上モデル校として「運動大好き馬三の子」を目指して、「馬三元気アップタイム」等を計画的に行い、体力向上に努めている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4: 45%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> ○児童一人ひとりの学ぶ意欲を大切にした授業を行うために、全教員がそれぞれ工夫しながら取り組んだ。特に算数ではステップ学習や、東京ベーシックドリルを活用したり、水曜教室や土曜補習を活用したりして学習内容の定着を図ってきた。 ○授業改善推進プランは、予定通り夏季休業中に各教科部会を中心にまとめ、2学期以降の授業に生かしてきた。 ○保護者向けアンケートにおける「学校は学習内容を身に付けさせている」の項目の回答でのA評価(4段階で最上位)の割合は、昨年度の42.8%から46.9%になった。4.1ポイントの大幅上昇で、成果指標の4段階をクリアすることができた。 ○今後も児童が主体的に学習に取り組むことができるように、体験的な活動や話し合い活動(はなちゃんタイム)を効果的に取り入れていく。 ○授業改善推進プランを授業に生かすため、2学期以降の指導案や週案に明記することを取り入れる。 	○取組を評価します。 ○授業についていけない子供のケアをこれからもお願いいたします。 ○土曜教室ができなかった場合もそのままにせず、水曜日に追加し、学習の遅れを取り戻そうと努めてくださったので、次年度も引き続きお願いいたします。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3: 40%以上 45%未満			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2: 30%以上 40%未満			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	1: 30%未満			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	1: 30%未満			
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: 97%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> ○児童一人ひとりを大切にした指導を心がけている。一人ひとりのよさや可能性を引き出すために、実態把握を重視している。日常的な観察をベースに、学校生活調査やいじめアンケートなどを活用している。 ○児童の問題行動については、毎週金曜日の生活指導夕会や、各学期に行う児童理解の会などで、情報共有し、組織的に対応できるようにしている。 ○必要に応じてケース会議を開き、児相や民生児童委員などの関係機関とも連携して児童の対応に当たってきた。 ○児童向けに行うアンケートで「友達が好き」と回答した児童の割合は、昨年度の96.6%から1.1ポイント上昇し、97.7%になった。成果指標の4段階をクリアすることができた。 ○一人ひとりの自己肯定感を高めるためには、自分のよさや友達のよさに気付くことが大切になる。そのため、友達の良いところを見付け合う活動や、話し合い活動などを通してお互いを認め合う活動を今後も続ける。 ○自分や友達のよさが発揮できるように、児童が主体となって取り組む活動を、教科学習や特別活動など様々な場面で意図的に設定する。 	○取組に敬意を表します。 ○いじめは根が深く、未然防止は大変ですが、よろしく願っています。 ○道徳の授業で自分のよさ、友達のよさを見付け合い、話し合いをする様子を参観したことがあります。よさだけではなく、いやな言葉・されたとき、どんな感情がわくのか想像力を高める道徳の授業をもっと取り入れてほしいです。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3: 90%以上 97%未満			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2: 85%以上 90%未満			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1: 85%未満			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	1: 85%未満			
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4: 92%以上	3	<ul style="list-style-type: none"> ○体力向上部が中心となり、組織的・計画的に体力向上を目指した活動を進めてきた。 ○「元気アップタイム」では、年間計画を立て、全児童が持久走と大縄跳びに取り組んだ。 ○2学期後半には「持久走月間」を設定し、期間中は中休みに毎回全児童が持久走を行った。 ○食育に関しては、栄養士やゲストティーチャーと連携し、各学年の発達段階に合わせた指導を計画的に進めた。 ○児童向けに行うアンケートで「運動が好き」と回答した児童の割合は、昨年度の91.6%から90.4%に1.2ポイント下がってしまった。成果指標は3段階に留まった。 ○計画した取組内容は予定通り実行したが、児童にとっては、やらされている感じを受けたのかも知れない。意欲的に取り組むための工夫として、水曜日は行わないなど、体力向上部で次年度計画を見直すことにした。 	○成果指標は90%以上でよいと思います。 ○区マラソン大会の好成績をお願いします。 ○青少年対ドッジボール大会での好成績を評価します。 ○マラソン週間・なわとび週間・月間の取組が計画的に行われていてよいと思います。 ○食育活動もすばらしいです。 ○おいしい手作り給食には大変感謝しております。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3: 85%以上 92%未満			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2: 80%以上 85%未満			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1: 80%未満			
		児童の健康・体力向上に向けての取り組みを組織的に行う。	1: 80%未満			
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: 90%以上	3	<ul style="list-style-type: none"> ○電子黒板を活用した授業を計画的に行い、授業改善に取り組むことができた。児童用タブレットの活用も増えている。 ○一人ひとりのニーズに合わせた指導を行うために、ユニバーサルデザインと個別の支援の両面から工夫をした授業づくりを心がけている。また、学校特別支援員と生活指導支援員を計画的に配置し、成果を上げている。 ○保護者向けに行うアンケートにおける「学校は一人一人のことを考え、一生懸命指導している」の項目の回答での肯定的評価の割合は、昨年度の87.9%から87.3%となり、0.6ポイントとわずかではあるが下がってしまった。成果指標は3段階である。 ○授業改善でも特別支援でも、教員がそれぞれ取り組むのではなく、学年や学校全体が組織として取り組むことができるようにする。そのため、校務支援システムを有効利用するなど、児童や学級の情報を全教員が情報共有し全校(全教員)で指導する体制をさらに徹底する。 	○700人近く児童がいるにもかかわらず、一所懸命に向き合ってくれている先生たちに感謝しております。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3: 85%以上 90%未満			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2: 80%以上 85%未満			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	1: 80%未満			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	1: 80%未満			
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 85%以上	3	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は12月のホームページ改訂後、ほぼ毎日更新して学校生活の様子を知らせるなど、情報発信に力を入れた。 ○地域教育連絡協議会では、学力に関する情報や、教育活動報告などの資料を用意し、児童の実態を分かりやすく知らせるように努力した。 ○保護者向けに行うアンケートにおける「自分は学校の教育活動に協力している」の項目の回答での肯定的評価の割合は、昨年度の80.9%から82.6%になり、1.7ポイント増えた。しかし、85%には達しなかったため、成果指標は3段階に留まった。 ○来年度は本校開校80周年の記念の年に当たる。家庭・地域・同窓会などとの連携をより一層深める機会とするため、PTAや地域の方々から選ばれた代表で周年実行委員会を組織し、計画的に進めていく。 	○地域との連携を大切にしていると思います。 ○地域としては、学校はもとより、家庭(PTA)との連携をさらに深めていく必要があると考えます。地域の一人としてです。 ○スクールサポートの会合の招集があまりなかったと記憶しています。 ○馬込は、学校と地域のチームワークがすばらしく、今後も連携を深めてほしいです。 ○いつまでも子供たちが安心・安全に通える学校でいてほしいです。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3: 75%以上 85%未満			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2: 65%以上 75%未満			
		家庭学習の習慣が身に付くように、家庭への啓発を行う。	1: 65%未満			
		保護者向けに行う「平成30年度 本校の教育に関するアンケート」における「学校は一人一人のことを考え、一生懸命指導している」の項目の回答での肯定的評価(4段階でA・B評価の合計)の割合(平成29年度の割合は、80.9%)	1: 65%未満			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。